

人工海浜における利用者意識調査

千葉工業大学 学生員 社田 裕美
 千葉工業大学 学生員 ○安東 大地
 千葉工業大学 フェロー 矢内 栄二

1. はじめに

いなげの浜は、東京湾奥部に位置するレクリエーション目的とした国内初の人工海浜である。この浜は、海岸ゴミ処理費の増加や、利用者の減少など問題が生じている。

本研究では、利用者を増加させることを目的とし、利用者への意識調査をもとにその対策を検討した。

2. 調査概要

調査海浜は、図-1 に示す千葉県千葉市に位置するいなげの浜である。調査期間は 2006 年 4 月～2007 年 1 月までの 10 ヶ月とし、利用者の多い午前 11 時～午後 2 時に利用者にアンケート調査を実施した。調査日の対象者数、天候、気温は表-1 に示した通りである。アンケート内容は表-2 に示したように、利用目的、利用頻度、海岸ゴミに対する評価と関心度、海岸ゴミを減らす対策、いなげの浜の印象、将来的にいなげの浜をどうしたいかなど 19 項目とした。対象者内訳を表-3 に示す。

3. 結果と考察

3.1 いなげの浜の現状

図-2 は、浜の悪い印象に対する回答結果を示したものである。どの季節も「汚い」という回答が多い。

図-3 は、季節ごとのゴミの印象に対する回答結果を示したものである。春、夏ではゴミが多いと感じる人と少ないと感じる人の割合が半々なのに対し、秋では半数以上の人がゴミは少ないと感じていること、春と夏は浜が汚れていると感じる人が多い。

図-4 は、浜での飲食の有無に対する回答結果である。夏、秋、冬に浜で飲食をする人が 50%以上になることが分かった。このことから、春は飲食ゴミがあまり出ず、夏、秋、冬に飲食ゴミが多く出ることが分かる。特に、利用者の多い夏は多くの飲食ゴミが多く出ることが予想される。

図-5 はゴミを減らす対策に対する回答結果である。利用者がゴミを出さないと答えた人が多いこと



図-1 いなげの浜

表-1 調査日の回答者数、天候および気温

季節	調査日	対象者数	天候	気温(°C)		
				最高	最低	平均
春季	2006/4/15	34	薄曇時々晴	13.6	7.3	9.7
	2006/5/6	37	薄曇	23.3	17.3	19.7
夏季	2006/6/4	75	薄曇	22.2	15.1	17.9
	2006/7/22	22	曇り	25.4	20.7	23
	2006/8/4	118	快晴	31.6	24	27.1
秋季	2006/9/16	20	晴後曇	26.2	17.9	21.7
	2006/9/19	28	晴後曇	31.2	24.4	27.2
	2006/10/14	41	晴時々曇	22.4	15.3	17.9
	2006/11/4	52	曇時々晴	21.2	13.2	16.7
冬季	2006/12/3	29	晴時々曇	11.6	5	8.2
	2007/1/14	67	快晴	10.8	1.3	6

表-2 アンケート設問内容

設問	アンケートの設問内容
1	あなたは今日誰と来ましたか。
2	あなたは今日、どんな目的でいなげの浜を利用していますか。
3	あなたが今日、いなげの浜を選んだ理由を教えてください。
4	どのくらいの頻度でいなげの浜を利用しますか。
5	いなげの浜のゴミは多いと思いますか。
6	いなげの浜で飲食をしましたか。
7	あなたは出したゴミをどうしますか。
8	ペットボトル、ビン、カンの分別箱ができれば分別して捨てますか。
9	もし、ゴミが落ちていたら進んで拾いますか。
10	いなげの浜では定期的にゴミの清掃を行っていることをご存じですか。
11	いなげの浜のゴミの清掃を誰がしなければいけないと思いますか。
12	ゴミを減らす手段として最適なのはつぎのどれだと思いますか。
13	どのような手段で呼びかけるべきだと思いますか。
14	いなげの浜の良い印象はありますか。
15	いなげの浜の悪い印象はありますか。
16	いなげの浜を将来的にどのようしたら良いと思いますか。
17	性別を教えてください。
18	あなたの年齢を教えてください。
19	あなたは今日、どこから来ましたか。

表-3 回答者内訳

季節／年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～
春	1	19	19	10	9	13
夏	52	43	63	17	20	23
秋	7	19	35	18	29	33
冬	8	2	21	5	12	19

から、利用者のゴミに対する意識が高いことが分かる。また、夏にゴミ箱を増やして欲しいという意見、春と夏にゴミを出さないよう呼びかけをして欲しいという意見が多いことが分かる。

図-6 はゴミを出さないよう呼びかける手段に対する回答結果である。放送や看板、ポスターで呼びかけて欲しいという意見が多かった。

3.2 利用者増加対策

利用者増加対策を浜の悪い印象からと将来的に望むことの2点より考える。浜の悪い印象は図-2 より「汚い」という意見が多かったことから、海岸ゴミ対策を行うことにより悪い印象について改善できることが分かる。図-7 は浜の将来像に対する回答結果を示したものである。利用者が将来的には、春はイベントを行うこと、夏は簡単な食事のできる施設を用意するなど季節ごとの対策を望んでいる。また、図-4,5 より海岸ゴミ対策として、利用者の多い夏に臨時にゴミ箱を増やすことがあげられる。図-6 より夏と秋は放送や看板、ポスターを併用、春は看板やポスターで呼びかけをすることを提案する。

4. まとめ

本研究では意識調査をもとに利用者増加対策を検討した。結果、どの季節も浜が汚いというイメージが強く、特に夏にゴミが多いと感じる人が多いこと、飲食をする人が多くなることが分かった。このことより利用者増加対策として、通年にわたり海岸ゴミ対策を行うこと、春はイベントを、夏は食事のできる施設を用意することを提案した。

謝辞：本研究を進めるに際し、千葉市美浜公園緑地事務所には調査の協力をいただいた。記して謝意を表する。

参考文献

- 1) 矢内栄二・米田規幸・矢島秀二：人工海浜「いなげの浜」の維持管理における問題点とその要因，海岸工学論文集，第51巻，pp.1256-1260，2004。
- 2) 矢内栄二・矢島秀二・並木勇輔：人工海浜の海岸ゴミに対する利用者意識の変化，海洋開発論文集，第21巻，pp.205-210，2005。

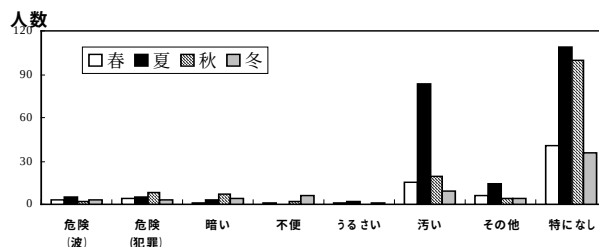


図-2 浜の悪い印象に対する回答結果

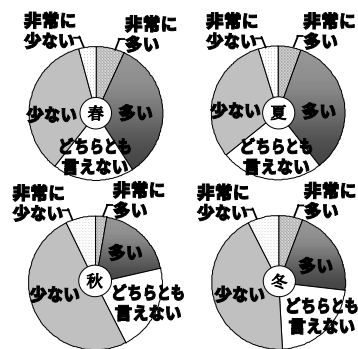


図-3 季節ごとのゴミの印象に対する回答結果

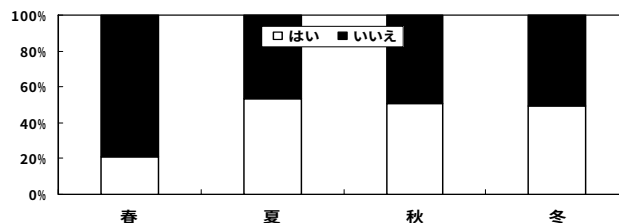


図-4 浜での飲食の有無に対する回答結果

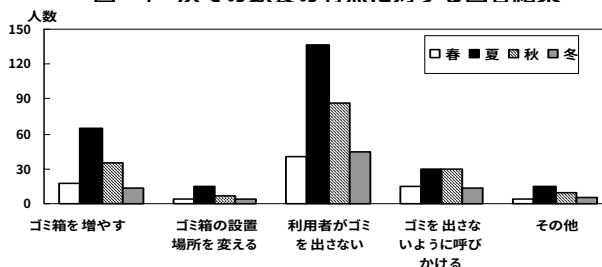


図-5 ゴミを減らす対策に対する回答結果

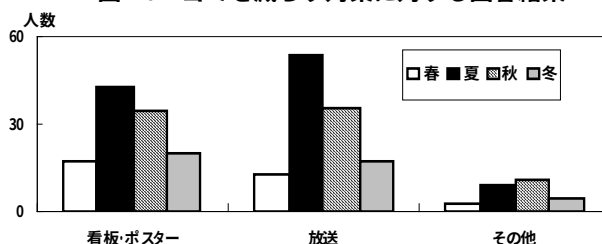


図-6 ゴミを出さないよう呼びかける手段に対する回答結果

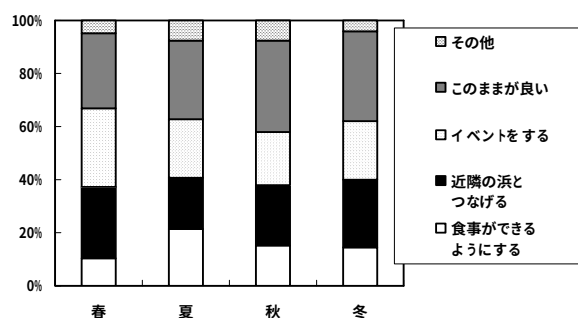


図-7 将来像に対する回答結果